

別紙1 (表1) 「遠隔による自立活動の効果的な指導」の実現に向けて

授業のデザイン

● オンラインの良さを生かした授業をデザインする。

- ① 電子版「自立活動目標設定シート」を作成し、自立活動の目標を設定する。シートを作成する際は、「学びのネットワーク」を活用し、多面的・多角的な視点から検討しながら行う。
- ② 対面による指導とオンラインを活用した指導、どちらの良さも適切に組み合わせて生かしていくハイブリッド型の指導を計画する。
- ③ 学習指導案に、「オンラインを活用した指導のねらい」や、「ICT活用上の留意点」を具体的に記載し、学習評価や、指導の効果の考察につなげる。
- ④ 自立活動の指導の効果を通常の学級においても波及することを目指す。



環境のデザイン

● オンラインの良さを生かした学習環境をデザインする。

【児童生徒】

- ① Web会議システムの使い方や情報端末操作のためのスキルの習得

【教師】

- ① 「学びのネットワーク」の構築と活用計画の作成
 - ・家庭や相手先への説明と協力依頼
- ② 通信環境の確認とツールの準備
 - ・自校、家庭、相手先等
 - ・事前接続テストの実施
- ③ ICT活用スキルの向上と、児童生徒のICTスキルの実態把握及びその習得への指導
- ④ トラブルの想定とその対応等のマニュアル作成
- ⑤ 市町村教育委員会への連絡やICT支援員等との連携
- ⑥ オンライン公開授業の準備と実施
 - ・在籍校、在籍学級担任、外部の専門家等



自立につながる、学びやすい環境



「遠隔による自立活動の効果的な指導」の実現

実践から見る「オンラインを活用した指導の良さ」

学習者(児童生徒)	指導者(担当教師)
<p>移動時間と空間に関係することについて</p> <p>①落ち着いた場所・慣れた場所で学習することが可能となり、意欲的に学習に取り組むことができる。</p> <p>②学習の回数を増やすことや、長期休業中でも学習すること等、継続して学習に取り組むことができる。</p> <p>③通常では訪問が難しい場所の人とも学習することが可能となり、意欲的に学習に取り組むことができる。</p> <p>④通常では訪問が難しい場所の専門性の高い講師等から、直接指導を受けることができる。</p> <p>学習内容等について</p> <p>⑤複数で学習を行った方が効果的な場合、校内に対象相手の児童生徒が在籍していない場合であっても可能となり、同じ困難さのある友人と苦痛や悩みを分かち合うことや、多様な考えに触れること等ができる。</p> <p>⑥広範囲から人材の活用を図ることが可能となり、同じ障害のある大人のロールモデルに触れるなどして、障害の受容や自己肯定感を育てることができる。</p> <p>Web会議システム機能等の活用について</p> <p>⑦画面を通してのやりとりが、刺激を統制した落ち着いた学習環境となり、情緒が安定し、学習に集中することができる。緊張が和らぎ、他者とのコミュニケーションをとることができる。</p> <p>⑧画面の中の相手を意識し、相手に伝えること・相手の話を聞くことに集中することができる。また、見るものに焦点をあてることができる。</p> <p>⑨自分なりの表現方法の一つとしてチャット機能がツールの選択肢となり、自信をもって他者と会話することができる。</p> <p>⑩ミュート機能の活用で会話の間を実感したり、リアクション機能で心情の表現をしたりできる。</p> <p>⑪カメラ等機器の配置により多角的な視点が可能になることにより、動き等をモニターしながら的確な自己評価をすることができる。</p>	<p>移動時間と空間に関係することについて</p> <p>①②③について</p> <p>○障害の状態や特性等に応じて、指導場所や時間・回数を柔軟に選択・決定することにより、指導の効果を高めることができる。</p> <p>④について</p> <p>○担当教師が、専門性の高い講師と協働する授業を行うことにより、授業改善に生かす等、指導力の向上を図ることができる。</p> <p>指導内容等について</p> <p>⑤⑥について</p> <p>○少人数(ペア学習等)での学習を計画し、指導の充実を図ることができる。</p> <p>Web会議システム機能等の活用について</p> <p>⑦⑧⑨⑩について</p> <p>○障害の状態や特性に応じて、Web会議システム機能を活用することにより、心理的な安定が図られ、指導の効果を高めることができる。</p> <p>○情報量の調整をし、見てほしいものに、焦点が当てられる。</p> <p>○意思伝達方法の一つとしてチャット機能を活用することにより、児童生徒とのやりとりを充実させることができる。</p> <p>⑪について</p> <p>○公開研究授業の参観ポイントに応じて、カメラ等機器の配置を工夫し多角的な視点が可能になることにより、担当教師のニーズに応じた指導・助言を得ることができる。</p>

実践から見る「対面による指導の良さ」

学習者(児童生徒)	指導者(担当教師)
<p>情報量等に関係することについて</p> <p>①指導者の画面越しの音声等からだけでなく、非言語コミュニケーションといわれている表情や姿勢等から多くの情報を得やすいことから、説明や指示を正しく理解することに役立てることができる。</p> <p>②実物から手触りやにおい等の情報を得て目標に迫る学習を行う場合は、五感を通して気付きが生まれ、理解を深めることができる。</p> <p>学習意欲の維持等について</p> <p>③人とのつながりや空間の同時共有性を感じやすいことから、学習に対する集中力が高まる。</p> <p>④表現方法が多少未熟であっても、指導者が近くにいるので、十分な時間をとる等の理解が得られやすいことから、安心して表現活動等ができる。</p> <p>⑤称賛や励ましの言葉を随時近くで聞くことができるので、学習への意欲を維持しやすい。</p> <p>学習内容等について</p> <p>⑥直接身体等に触れたり動かしたりしながら目標に迫る学習を行う場合は、実感を通して気付きや確認等ができる。</p> <p>学習中の指導・支援について</p> <p>⑦学習中の理解度(形成的評価)に応じて、柔軟に指導方法の変更が可能になることから、無理なく楽しく学習に取り組むことができる。</p> <p>⑧演習や作業等の学習で困ったことがあった場合、指導者が近くにいるので、画面越しの音声等からだけでなく、動作を伴った支援が受けやすくなり、安全かつスムーズに学習を進めることができる。</p>	<p>情報量等に関係することについて</p> <p>●多様な学習場面を想定した障害による学習上又は生活上の困難を、観察や対話等からきめ細かく把握することができる。</p> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者に対して、非言語コミュニケーションといわれている表情や姿勢等を効果的に使って、指導・支援することができる。 <p>学習意欲の維持等について</p> <p>③④⑤について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人とのつながりや空間の同時共有性を感じやすいことから、ラポールの構築に効果的である。 ・児童生徒の表情やつぶやき等から理解度や意欲をタイムリーに把握できることにより、称賛や励ましの言葉をかけたり注意を促したりしながら、効率よく指導することができる。 <p>指導内容等について</p> <p>⑥について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接身体等に触れたり動かしたりしながら目標に迫る指導を、スムーズに行うことができる。 <p>学習中の指導・支援について</p> <p>⑦について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の反応に応じて柔軟に指導方法の変更がしやすいことから、指導と評価の一体化を図ることができる。 <p>⑧について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習や作業等の学習でつまづきが発見しやすいことと同時に、手を添える等の支援がしやすくなる。

実践から見る「障害別効果的な指導事例」

障 害	オンラインを活用した指導が効果的	対面による指導が効果的
視覚障害	○画面を通して全体像を映す学習環境をデザインすることにより、周りの様子をつかんで見通しをもって学習することができる。	○初めての学習を行うときは、作業量を制限して対話しながらイメージを作るプロセスが確保しやすい。 ○触って確かめたり、事物の構造を把握したりする指導ができる。
聴覚障害	○表現方法の一つとしてチャット機能がツールの選択肢になり、他者との会話に自信をもつことができる。	○視覚的伝達手段に加えて、身振りや手振り等の補助手段を使うことにより、適切な指導ができる。 ○ICT機器の性能に関係なく、正確な音の聞き取りができる。
肢体不自由	○身体の動きをリアルタイムにモニターすることができる環境をデザインすることにより、自己評価の機会を設定できるとともに、障害の特性の理解を深めることができる。	○身体の状態に大きな変化が生じた場合は、直接触ったり目視で細かい動きを観察したりして具体的な障害の状況等の把握ができ、適切な指導ができる。
言語障害	○画面のアップにより、感染を心配することなく、児童生徒の正しい舌の動きや口の形を確認することができる。 ○長期休業中に行う等、発音練習や定着のための指導が継続できる。	○教材を舌の上に置くなどして構音点を確認し、舌の動きや口の形の良い状態を、児童生徒自身が実感できるようにする。 ○ICT機器の性能に関係なく、正確な音の聞き取りができる。
自閉症・情緒障害	○画面越しに対面することにより、緊張がやわらぎ、他者とのコミュニケーションをとることができる。 ○チャット機能やリアクション機能を自己の表現手段の一つとして活用することにより、他者と進んで関わりをもつことができる。	○1単位時間中落ち着いて座学による学習を行うことができない場合は、体を動かす活動を入れるなど、柔軟な方法で対応できる。
発達障害	○画面を通してのやりとりという学習環境が、刺激を統制した落ち着いた環境となることにより、情緒が安定し、学習に集中することができる。	○個々の多様な障害の状況等に応じた指導方法を工夫することができる。